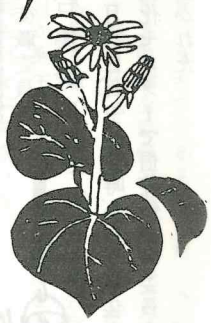
仙台司教区 教区事務所だより



（第　37　号）
昭和55年11月1日

第七回司牧評議会

〃教区目標〃を考える

去る9月23日(火)秋分の日、午後1時から5時まで、元寺小路教会・信徒館において、佐藤司教以下22名の評議員出席の下に、第七回司牧評議会が開かれた。

今回の議題は、今年の教区目標「聖書に基づいた家庭における子供の信仰教育」が、各地区でどの程度浸透しているかを知るためのアンケートを取り、各県代表が持ち寄ることになっていた。その結果は、次の通りである。

●家庭に祈りを！

この事について、4月以降ほとんどの教会では、司祭から、ミサ中の説教、種々の集会のおりに、説明があった。各家庭においては全員信者の場合は、一緒に夕の祈りをしたり食堂に祈りの紙を張ったり工夫するようになった。しかし大部分の家庭では、信仰を持たない家族への遠慮などから、おりにふれて祈る、という状態にとどまっている。しかし、子供達は進んで家庭祭壇の前で自分のことばで祈るなど積極的で、祈りの行為は、子供の時しつけられる事が大切だと痛感させられる。

●親が自信を持てないという事への対策

聖書研究会や、日曜学校の教師として勉強する事によって、自信を持つようになった。又、種々の機会を捕えて、子供達と話し合いながら一緒に勉強している。テレビや映画を見る事から知識を得、親と子の対話の場を作っている。しかし全般的には、実践に一歩踏み出した域にとどまっているように思われる。

> 教区目標
> 「聖書に基づいた
> 家庭における子供の信仰教育」

●「聖書と典礼」の利用について

全体的に聖書に親しむためのテキストになっており、次週の日曜日のために家に持参して、前もって聖書の箇所を読んでおくなど、いろいろ工夫している。

●家庭祭壇について

家庭祭壇は、70％位は持っており、飾りだなの中、従来の仏壇、タンスの上等を利用、又は手製で自室の一遇にコーナーを作るなど、きちんとしたものでなくとも、小さな祭壇を持っている家庭が大部分である。

アンケートからまとめてみると以上のようであるが、調査方法で、問題点も多く、正確にその現状を把握したとは言えず、又、司牧評議会の意図している事が全信徒に徹底していないのではないか、との意見も出された。

提案　二年間同じ目標を出したが、その総まとめを、司教から全信徒に出してほしいという提案が出され、役員会でまとめる事になっている。

司教様の日程

11月1日　弘前大清水ホーム堅信
2日　弘前教会堅信
3日　司牧評委員会
6日　社会福祉法人理事会
10日　司祭評議会
11日　カトリック仙台司教区責任役員会
12・13日　中央協財務小委員会
14日　東京大神学校常任委員会
16日　スペルマン病院理事会
17～22日　石巻教会堅信
25～28日　教区司祭団年次黙想会
30日　司教会議
西仙台教会堅信

祝 25周年
創立・米川教会
献堂・花巻教会

米川教会――去る8月16日(土)、米川教会創立25周年記念を約百名の参加のもと、盛大に行われた。記念のミサと物故者追悼式には、佐藤司教、小林司教、ベトレヘム会のツーゲル管区長、同会ヨハネ師をはじめ、米川町長・及川氏、歴代司祭の斎藤、小野、三浦師も列席、更に千廏教会の佐藤守也師、修道女、教会関係者多数の参加の内に行われた。物故者追悼式には、各家庭から「位牌」を持参、25年の間に亡くなられた信者の魂の平安を祈った。

続いて、祝賀会は保育園のホールで行われ、想い出を語り、お得意の歌を披露し、手作りの料理を味わいながら、お互いの幸福と、米川教会の益々の発展を祈り、午後二時過ぎ散会した。なお、25周年を祝し、記念誌「身も魂も」を発行。米川教会の歴史をひもとくための貴重な資料である。

キリシタン殉教の地としても最近脚光をあびている米川教会（主任・高橋昌師）は、新たな信仰への出発点に立っているようである。

花巻教会――花巻カトリック教会の献堂式が行われたのは、25年前の昭和30年9月26日で、当時信徒数は6名であった。

以来25年間に、ベトレヘム会、スイスの信者方の多大な援助、犠牲に支えられて、信者数も百名を越える数となり、環境、整備も整えられ、聖堂、司祭館の他に、伝道館、カトリック会館もでき、信者の増加が期待される現状である。この25年の間に、二人の司祭が花巻から誕生。現在一人の神学生が、司祭への道を歩んでいる。

この25周年を記念して、去る9月21日、記念ミサ、及び祝賀会が行われた。佐藤司教をはじめ、ベトレヘム会ツーゲル師、花巻教会主任ゲーヴィレル師、花巻教会出身の秋田県本荘教会主任・及川師、3年余のローマ留学を終え帰国したばかりの平賀師等、7名の司祭の共同ミサが行われ、ミサ中8名の堅信式も同時に行われた。

ミサ後祝賀会場を伝道館に移し、遠く県外からもお祝いにかけつけた方々も加え、百名を越す列席者で盛大な祝賀の宴が開かれた。

席上、25年間花巻教会を育てて下さったゲーヴィレル神父様、同じく25年間カテキスタとして働いて下さった加美山恵子さん、ゲーヴィレル師の健康管理者として、20年間働いて下さったコックさんの佐藤エミ子さんに、花巻教会信徒一同から、ささやかな記念品が贈られ、和気あいあいの内に25周年の記念行事を終了、花巻教会一同、明日への希望に向かって、新たな第一歩を踏み出した。

（花巻教会－似内　稔）

信徒使徒職委員会
仙台集会開催

去る9月21日(日)午前10時から、新装なったYBU文化センターで信徒使徒職委員会仙台集会が開かれた。

今回は、「日常、生活している場を福音の光で照らし、見直しをしながら、生活そのものとその場を福音化していく」という目標に向けて、二つの事例発表を中心に集会を持った。

信徒使徒職委員会本部から島本司教、深水神父、地元から笹気、ジョリコール両神父、そして信徒を含め35名が参加。充実した一日を過ごした。

まず10時から、開会とオリエンテーション。続いて、新村碩子氏により、「人命尊重、実子特例法を通して」の発表があった。新村さんは、仙台市内のプロテスタント・カトリック合同で作っている「実子特例法を考える会」のメンバーで積極的に活動。小さな生命を救おうと、実子特例法が日本にもできるよう訴えた。続いて山浦玄嗣氏による「東北のキリスト」と題しての発表があった。同氏は、当時イエズスが語った言葉は決して標準語ではなかったのではないか。ガリラヤ地方の方言であったと思う。自分にとってのキリストも気仙沼の言葉を語るキリストである。信仰というのは、自分の内的さけびと密接な関わりがある。叫びとは、いわゆる共通語として語られる言葉ではなく、生活空間から発せられる言葉である。そうだとすれば、イエズスの言葉は、我々東北人にとって、それぞれの地方の人々にとって、その地方の方言で語られてしかるべきではないか、との意見であった。

最後に感謝の祭儀が行われたが、ミサ中の福音は、山浦氏により、気仙沼の方言で朗読され、参加者に深い共感を与えた。

第11回 福島県カトリックの集い

＜会津若松＞

第11回福島県カトリックの集いが、10月10日体育の日に、会津若松ザベリオ学園で行われた。政治的にも社会的にも課題の多い80年代の幕明けに当たり、過去10年を振り返りながら、新しい出発点として、「現代社会の変化に対応する信徒の役割」をメインテーマに行われた。

まず10時から、佐藤司教を中心に、13名の司祭による共同ミサが献げられ、その後、会津短大教授・矢島博氏により、「社会福祉の谷間と私達のなすべきこと」という講演があった。

昼食後メインテーマに基づいて参加者二百名は、壮年、婦人、青年姉妹の各分科会に分かれ、活発な話し合いが持たれた。

最後に、全体会で各グループの発表を聞き、司教様の講評をいただき、参加者一同、現代社会における信徒の役割について再認識して今後の活動に活力を得て閉会した。

若手司祭の集い　弘前で！

一昨年から始まった仙台教区内の「若手司祭の集い」が、10月13・14日の両日にわたり弘前の大清水ホームで行われた。

今回は、9月に3年の留学を終えてローマから帰国した平賀徹男師の帰国祝いを中心に集会を持ったものである。また、今回から、福島・松木町教会助任のボール・ヤノシンスキー師（ポーランド出身）が参加、若手司祭の中でも最も若い29歳で、丁度集会を持った9月14日が誕生日とあって、深夜をもって、29歳の誕生日を共に祝った。

二人の若い司祭を仙台教区にむかえ、教区の若返りと、一層の前進が期待される。

スポーツの秋

◎仙塩地区運動会

去る9月21日(日)秋晴れの下、仙塩地区運動会が、ラ・サールホームのグランドで行われた。

始めにクルノワイエ師司式により、感謝の祭儀のミサが献げられ、続いて開会式。昨年優勝した塩釜教会から優勝カップが返還され、競技が開始された。

幼児から大人まで、力一杯走ったり踊ったり、童心に返ったさわやかな一日であった。

昼食時には、婦人会により豚汁が供された。

運動会の華、教会対抗リレーでは、今年も熱戦を繰りひろげた。総合成績では、今年の優勝は、昨年に引き続き、塩釜教会、二位畳屋町、三位八木山である。

今年は種々の行事が重なり、参加者が少なかったのは残念であった。又、毎年けが人が出る事も一考を要するであろう。

◎第二回夜間ハイク

10月9日の夜から体育の日10日に向けて、第二回夜間ハイク（責任・笹気神父）が仙台で行われた。

今年は、元寺小路教会を起点に、夜11時出発。仙台東部の街を歩き、太平洋を望む新浜海岸への15キロがその経路であった。

中学生から50代まで、約70名の男女が参加。夜道を星をながめながら、祈りつつ、語り合いつつ歩き、目的地に到着したのは、明け方4時半。この体験を感謝しながら、ベルニエ、平賀、笹気三司祭による共同ミサが砂浜で献げられた。ミサ中に朝日が昇り、赤くそまった朝焼けの空の下で神の創造の業を賛美した。

ミサの後二つのたき火で豚汁を作り朝食をし、疲れをいやした。

今年は参加者も昨年より多く、年齢にも幅がありバラエティーに富んでおり、毎年この会が続けられる事を望む人も多い。

修道誓願50周年

スール・ルシェン・ルノー（無原罪聖母会）

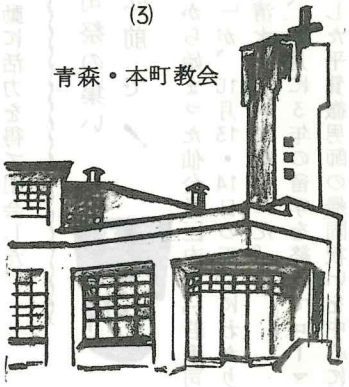
去る9月14日、無原罪聖母会・会津若松修道院において、スール・ルシェン・ルノ（修道名はスール・アニエス・ド・アッシジ）の金祝の感謝のミサが、ガダルペ宣教会管区長・ホセ師、ドミニコ会トラハン師、八戸・塩町教会の渡辺彰師の共同司式で献げられた。

同修道女は、一九三一年来日以来、戦前戦後を通して、郡山、会津若松で幼稚園、ピアノ教室、養護施設に勤務。現在は、喜多方の千草幼稚園で働いている。

おらが教会

(3)

青森・本町教会



歴史　一八八四年（明治17年）、パリ宣教会のフォーリー神父によって青森町の宣教が開始されて以来、96年の歴史を持つ。

昭和24年に現在のカナダ・ケベック外国宣教会に移管され、今、主任司祭は12代目のデロシエ神父。信徒会長は北川昭一氏である。

＊　＊　＊

土台　本町小教区内には約7万の人口があると推定されるが、うち、信徒実数は三六〇名である。（施設等を含む）

青森マリア院、藤の園マリア院、養護施設藤聖母園、特養・養護の両老人ホームがあり、福祉活動に生涯を献げている修道女たちの姿をみることができる。

＊　＊　＊

顔　青森市には、本町教会、浪打教会、篠田教会の三つの教会があるが、浪打は昭和24年に、篠田は昭和47年に「分家」した教会で、本町はいわゆる「本家」に当たる。

「浜町教会」といわれていた昔は、街の中でも一番繁華な所であったそうだが、今は人通りも少ない寂しい倉庫通りの教会になってしまった。だから今では「分家」の方がずっとにぎやかである。しかし歴史の重さはある。

★　レジオマリエー小教区教会のプレシデュウムとしては、青森県でただ一つ生きている。人数は4人、と少ない会員ではあるが、やはり教会活動の要として頑張っている。

★　フランシスコ第三回ーこれも小教区教会では仙台教区ただ一つの信心会。会員は12名でちょうど使徒の数。信仰の要として、例会を通し、活動を通して信徒の模範となっている。

★　その他ー共助組合（信徒の金融互助組織）、市内カトリック墓地管理事務所等があり、信徒の実生活にも役立っている。

付属の幼稚園はないが、信徒の経営による「ヨハネ幼稚園」、修道会の経営による「藤幼稚園」がある。

ボーイスカウトはただいま休団中。

＊　＊　＊

夢　将来の教会を担うのは、やはり教会の子供達である。この教会の宝をたくましく育てるための日曜学校、侍者会には力を入れている。

又、色々な都合で久しく教会に来れない兄弟たちに心を配りながら、いつの日か、すべての信徒が、こぞって主の祭壇を囲むことを願いながら、主任司祭、信徒会長をはじめ、信徒たちお互いに頑張っている。

東京カトリック神学院女子職員　東北の旅へ招待

去る8月6日から4泊5日の日程で、仙台教区は、司祭方が費用を出し合って、東京カトリック神学院の台所で働く女子職員3名を、東北の旅に招待した。

今回の招待旅行は、三年前に招待して以来二回目の催しである。

この神学校は、邦人司祭を養成する目的で設立されたものであるが、数年前からその運営はイエズス会から司教団に移管されて現在に至っている。しかしそこで働く賄婦さん方は移動が少なく、今回参加された方々は、勤務されて二十年前後のベテランの方々3人である。

第一日目の8月6日は、仙台七夕を見物した後司教館に宿泊。翌日一関教会に立ち寄って気仙沼の近く岩井崎の民宿に泊まり、海の幸に舌鼓を打ち、くつろいだ。8日朝、国道45号線を海岸沿いに走り、岩手県北端の村、田野畑村の民宿に夕方到着。海辺にひっそりと民家が肩を寄せ合うように建っている半農半漁の村で、東京から遠く離れて、旅情を味わっているようだった。翌日は、浄土ケ浜などを見物して、花巻の台温泉に宿泊。盛岡のワンコそばも賞味するなど、短い期間ではあったが、東北の旅を味わっていただいた。

3人の方々と同行したのは、佐藤守也、今野両師であった。

教皇ヨハネ・パウロ二世訪日、来春か！

新聞、ラジオ、テレビ等で、すでに報道されている教皇ヨハネ・パウロ二世の訪日が、来年の2月頃に実現される可能性が強い。

教皇は来年1月末フィリピンを訪問されることは決定しており、その折に日本を訪問したいとの希望を持たれており、その実現が濃くなってきた。日本司教団としては、日本の気候の事などから11月が最適と以前お伝えしていたが、時期を早めて、フィリピン訪問に合わせて来日される可能性が強くなった。

司教団はもとより、日本の全カトリック者が心からおむかえできるよう、心の準備をしたい。この慶事は、カトリック者のみならず、日本の国にとっても大きな出来事である。

米国で、南米で、フランスで、人々に与えた教皇訪問の影響は大きい。時たま、あまり宗教と関係のない方から、「来年、ローマから教皇様が来られるそうですね。よかったですね」と言われる事がある。内部でより、むしろ素朴な無信仰の日本人がこの事を喜んでくれる事を感じる時、いろいろな意味で心の準備が必要と感じる。

ヨハネ・パウロ二世とは、どんな方なのだろうか。次の著書を一読される事をお勧めする。

●すべての人に心を開く　ヨハネ・パウロ二世
佐藤三夫訳　女子パウロ会発行　650円

ヨハネ・パウロ二世のメッセージ、あいさつ集で、親しみ深く教皇の心を伝えてくれる。

金大中氏たちを救出しよう
署名と祈りを！

＜仙台・正義と平和委員会＞

日本カトリック正義と平和協議会（担当司教・相馬信夫、代表・森田宗一）では、目下緊急を要する金大中氏等の助命、及び、詩人金芝河氏や、死刑囚の在日韓国人達の減刑のため、署名と共同祈願による協力を、日本の全カトリック信者の皆さんに呼びかけています。仙台協議会でもこの呼びかけに答えて、仙台教区の皆さんに協力を切にお願いしたいと思います。

韓国の元大統領候補・金大中氏は、韓国の民主主義のために生命をかけている敬けんなカトリック信者です。

同氏は、共産主義者ではありません。

今や、金大中氏は、戒厳軍によって不当にも内乱罪に問われ、23名の文学者、学者、キリスト者、学者、政治家と共に、軍法会議にかけられ、死刑に処せられようとしています。

金大中氏が逮捕されたのは5月18日未明で、光州事態の起きたのは、その翌日5月19日からで、同氏の逮捕に抗議したことが発端です。更に、同氏の逮捕時は、戒厳令布告違反とされていましたが、この布告は5月17日24時から発効したもので、逮捕までの数時間の夜間外出禁止中に何ができたでしょうか。布告以前にしたことを、罪に問うのであれば、19世紀以来、世界的に認められた刑事法上の大原則「罪刑法定主義」（一定の行為が犯罪として刑罰を科せられるためには、予め法律でその事が定められていなければならない）に反するばかりか、韓国の戒厳法第13条但書（「戒厳司令官は措置内容を事前に公告しなければならない）に違反する逮捕といえます。

又、裁判で問われている反政府的団体の結成や、反政府的発言については、世界人権宣言を引き合いに出すまでもなく、表現や結社の自由は、民主主義に不可欠なもので、これらの自由は、保障されなければなりません。

しかも、金大中氏は、以前、この日本から強制的に連れて行かれ、殺されようとしたのです。日本政府は、真相をおおい隠したままであり、これに対して、私達日本人は何をしたのでしょうか。

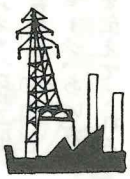
日本カトリック正義と平和協議会は、このような最近の韓国における光州事態や金大中氏等の裁判を深く憂えています。

韓国の国民は、今や、正しい事を公に口に出すこともできず、独裁政治の貨車の中に積み込まれています。

私達日本のカトリック者は、一番近い隣国の苦しんでいる兄弟に対して、今、ここで、できる事を真剣に考えたいと思います。

今一度、キリストの「みことば」を祈りのうちに味わい、神の呼びかけに心を開き、勇気をもって答えていきましょう。

ミニ情報



聖書週間

11.16～23

〝聖書を知ることは
キリストを知ること〟

仙台教区では、写真展！

今年も、聖書週間が、やって参りました。聖書に親しみ、「みことば」を味わい、私達の生活が、キリストの愛に生かされるものとなるよう、聖書週間が特に定められています。

仙台教区では、今年の聖書週間に、女子パウロ会の協力で、白川義員氏の写真集を中心に、「聖書の世界」写真展を開きます。この写真展が、親と子の話し合いの場となることができれば幸いです。

❀

写真展　「聖書の世界」　白川義員作
日時　11月21日(金)～23日(日)　10時～17時
場所　元寺小路教会第二集会室
（旧ＹＢＵセンター）
入場　無料
主催　仙台教区（担当・平田浩師）
協力　女子パウロ会

◎仙台・教会学校教師会
例会のおしらせ

仙台・教会学校教師会例会が次のように行われます。

前回の例会で、今野神父様から〝クリスマスについて〟の話があり、聖書理解についての示唆が与えられました。次回は次の通りです。

・テーマ　「クリスマスについて」(Ⅱ)
質問と話し合い　今野東志男師
・日　時　11月8日(土)　午後4時～6時
・場　所　元寺小路教会・信徒館

◎講演会のご案内（主催どんどん谷十五九舎）
演題　遠きながめは、たのしきかな
講師　押田成人師（ドミニコ会）
日時　11月11日(火)　午後6時半～8時
会場　元寺小路教会・信徒館。会費500円

仙塩地区連合婦人会　紹介

≪あけの星会≫

仙台・塩釜地区の連合婦人会（通称あけの星会）では、今年も種々の活動を通して、キリスト者婦人としての自覚を深めている。今年の主な活動を紹介したい。

5月・前期総会、役員改選
会　長　鮎沢美恵（北仙台）
副会長　高橋睦子（畳屋町）

6月・日本カトリック婦人団体連盟全国大会に参加。4名出席、当会員の田山仁子さんが大会で発表。来年は、より多くの会員が参加できる事を望んでいる。

9月・黙想会　指導ー平田浩師（東仙台）
9月3・4日午前10時～午後4時半
毎日ロザリオとミサで黙想会を始め、続いて平田神父様の講話「神の愛について」が、旧約から始まって壮大な広がりの内に神の愛の豊かさを語られた。毎日約50名の参加で、成功の内に、黙想会を終える事ができた事を感謝した。

10月・敬老会ー元寺小路教会・信徒館
仙塩地区の65歳以上の方々（神父様も含む）を招待し、会食と歓談を行った。

・後期総会ー一本杉教会
役員改選　会　長　荒谷春江（一本杉）
副会長　渡辺玲子（東仙台）

3月・世界婦人祈禱日の集会に参加予定

以上が今年度の主な活動内容である。構成メンバーは、各教会の婦人会会長と2名の役員で、指導は、土井文雄師である。

又、第一線を退いた婦人達が、アンナ会を作り、祈りと犠牲をもってあけの星会を支えている事も特記すべきである。二階堂ちさとさん（西仙台）が中心となって、この会を盛り上げている。

【編集後記】　＊街路樹が次々に葉を落として冬の訪れを告げています。省エネをどのように乗り切るか人間の知恵が試される時！＊韓国でのカトリック者の安否が気遣われます。平和な日本で、どれだけ彼らの苦しみに心を合わせられるか！祈りましょう。

ー・ー・ー・